

ユネスコ世界寺子屋運動「書きそんじハガキ」回収にご協力を！

～11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に～



12歳で花嫁に。16歳で母親に。41歳で識字者に。

ネパールに住むタラスティ・ハリジャンは46歳です。41歳で寺子屋に通い、初めて文字の読み書きができるようになりました。現在彼女は自分と同じような境遇の女性を一人でも救いたいと女性の権利を守る活動に参加しています。寺子屋が変えた彼女の人生が他の誰かの人生を変えようとしています。

しかし、世界には、学校に通えない子どもが約5,800万人、読み書きのできない大人が約7億8,100万人もいます。これは、世界の成人のおよそ6人に1人は読み書きができないことを表します。戦争や貧困、女性であるという理由だけで教育を受けられないというのが現実です。

1989年に開始した世界寺子屋運動は、教育支援と地域活性支援を行いながら貧困のサイクルを断ち切ることを目標に活動しています。皆さまからご協力いただいた書きそんじハガキは世界寺子屋運動の支援に使われます。



学ぶ機会を提供してくれた皆さんに感謝しています。私は戦闘のため故郷を離れなければならず、学校に行く機会がありませんでした。今では字の読み書きができるようになって幸せです。今後も継続的に支援してもらえれば嬉しいです。
(アフガニスタンのカデジャさん 33歳)

書きそんじハガキ回収にご協力をお願いいたします！

2016年度までの寺子屋プロジェクトで

カンボジアでは：

3軒の寺子屋が識字支援から自立運営に移行し、寺子屋卒業生が更に学び続けています。16軒目の寺子屋も完成しました。収入向上活動では、職業訓練を受けたり小口融資を受けて仕事を始めたりすることができました。

アフガニスタンでは：

16軒目の寺子屋を建設中。識字クラスの外、裁縫クラス、刺繍クラス、革製品づくりのクラスなどの技術研修を実施しています。また、識字クラスの教員研修や寺子屋運営研修などの能力開発も実施しました。

ネパールやインドやラオス、ミャンマーでも同様の支援が行われています



識字クラスの卒業試験



建設中の寺子屋（2017年10月完成予定）



支援までの流れ ～ハガキ回収から募金まで～

1. 集めていただいた書きそんじハガキは、仙台ユネスコ協会が受け取りにうかがいます。（年に2回）
2. 集められたハガキは郵便局で切手に交換します。
3. 交換した切手を日本ユネスコ協会連盟に送ります。
4. 協力企業にその切手を購入してもらい現金化します。
5. それは、世界寺子屋運動の募金として活用されます。
6. 年度末に活動報告をします。

未使用の古切手やプライベートカード
も集めております。